

タイトル) 粟粒影を呈した播種性クリプトコッカス症の 1 例

著者名、所属機関) 田中 佑磨¹⁾, 橋本 成修¹⁾, 田口 善夫¹⁾, 久保 武²⁾,
桂川 広幸^{3, 4)}, 羽白 高¹⁾

1) 天理よろづ相談所病院 呼吸器内科, 2) 同 放射線部

3) 同 病理診断部 4) 京都大学医学部附属病院病理診断科

要旨) 間質性肺炎に対して免疫抑制治療中に粟粒影を呈した播種性クリプトコッカス症の 1 例を経験した。症例は 83 歳女性。間質性肺炎に対してプレドニゾロンとアザチオプリンで加療中であった。尿からのクリプトコッカス検出を機に播種性クリプトコッカス症を疑い、血液培養からも検出され診断した。抗真菌薬で治療も 1 か月半の経過で死亡した。病理解剖で播種性クリプトコッカス症に矛盾しない所見を得た。細胞性免疫が低下した患者では、稀ではあるが、播種性クリプトコッカス症も胸部 CT で粟粒影を呈することを念頭に精査を行う必要がある。

キーワード) 播種性クリプトコッカス症, 間質性肺炎, 粟粒影

Disseminated cryptococcosis, interstitial pneumonia, miliary shadow

短縮タイトル) 粟粒影を呈した播種性クリプトコッカス症の 1 例